

みんなが支え合い、 安心して健康に暮らせるまち

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支えあいによってだれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

目指すまちの姿

みんなが支え合い、安心して健康に暮らせるまちを目指します。

下和泉地区の概況

立場、湘南台の駅を利用する人が多い。バスで駅に出ないと歩くのは少々困難。大きな病院がないことから、横浜医療センターまで足を運ぶ人が多い。

いずみ中央駅への公共交通機関の便が良くないことから、泉区役所、泉公会堂等を利用したイベントへの参加者が少ない。

スーパーはイトーヨーカドーや生協を利用している。

連合町内会の行事として、サマーフェスティバル、敬老会、体育祭などがある。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ほとんどの行事が中止となっている。

地域に障がい者の通所施設は存在しないが、生活の場であるグループホームは多い。



地域
課題

担い手が高齢化、また重複化しており、世代交代が進んでいない。

第4期計画の取組計画（目標、取組内容）

目標 健康づくりに取り組もう！



取組
内容

- 健康づくりを支援する「健康講座」や「健康チェック」を通して、地域の皆様の健康維持に努めます。
- 「健康ウォーキング」等を通して、地域の自然を生かした住民の健康づくりを支援します。
- 健康体操（ハマトレ、ラジオ体操など）、「お散歩ビンゴ」など、楽しみながら災害時にも家庭でできる体操や運動を提案します。

目標 支え合おう！助け合おう！



取組
内容

- 一人暮らし高齢者の方に食事会を提供する「八日会」の取組みや、高齢者世帯のちょっとした困りごとをお手伝いする「役立ち隊」の活動を通して、高齢化する地域の課題に取り組めます。
- 入園前の幼児を持つ保護者の方々の交流の場である「子育てサロン」を毎月開催することにより、子育てを支援します。
- 「八日会」と「子育てサロン」、さらには小学生、中学生とのコラボレーションを通して、支え合い、助け合いの多世代交流、意識啓発に努めます。

目標 広めよう！つなげよう！つながろう



取組
内容

- 広報誌「ほたる」の発行等を通して、下和泉地区社会福祉協議会の活動のご紹介に努めます。
- 「支え合い、助け合い」の標語を小学生、中学生、地域住民から募集し、入選作品を掲示することを通して、支え合い、助け合いの啓発に努めます。
- 「下和泉ハロウィン」等を通して、幼児、小学生、地域の方々の多世代交流に努めます。

第3期計画の取組と成果

健康づくりに取り組もう

取組

健康講座

- 健康講座と健康チェックを年2回開催



健康ウォーキング

- 歴史と文化に触れるウォーキング（年3回）
- 健康ウォーキング一覧表の作成発行（平成29年度）

成果

健康講座

- 参加者も徐々に増え、男性の参加者も少しずつ増えている。
- 自己診断の数値が記入できる「私の健康ファイル」を配付し参加者の健康意識が高まった。
- 健康づくりポイントを導入し、リピーターの増加に繋がった。また、開催日を工夫し、参加者の増加に繋がった。

健康ウォーキング

- 保健活動推進員と連携して実施し、参加者の増加に繋がった。また、他の地域からの参加者もいた。
- ウォーキングに参加することにより、健康増進に対する意識が高まり、万歩計を携行し、仲間同士、或いは独自でコースを選んで歩く者も出てきた。

地域で子どもをはぐくみ、成長を見守ろう！ 地域の行事や活動等を広げよう！盛り上げよう！

取組

八日会

- 一人暮らし高齢者のための食事会を年7回実施。

子育てサロン

- 入園前の親子の交流の場である子育てサロンを毎月第1、第3水曜日に実施。

新下和泉音頭の普及

- 新下和泉音頭を復活させ、サマーフェスティバルで披露。

下和泉ハロウィン

- 令和元年度から小学生、幼児が地域の施設や公園を回ってお菓子をもらう取組みを始めた。

成果

八日会

- 子育てサロン、コーヒーサロン、小学3年生との多世代交流を実施した。

子育てサロン

- 子育てネットワークを通して、ここでも「多世代交流」が進んだ。

新下和泉音頭の普及

- 新下和泉音頭を復活させサマーフェスティバルで披露し、地域への愛着を深める一助とした。

下和泉ハロウィン

- 子ども達が地域の施設や公園を回って大人からお菓子をもらい、子ども達と住民、施設の方々との交流が進んだ。幅広い世代の交流が実現できた。

助け合える関係づくりを進め、活動を充実させよう！

取組

広報誌ほたるの発行

- 「ほたる」を年4回発行。町内で回覧し、町内掲示板に掲示。

役立ち隊

- 65歳以上の高齢者や障害のある方などを対象に、ちょっとした困りごとのお手伝い。

標語による啓発活動

- 小中学生等から募集した「支え合い、助け合い」の標語から優秀作品を選定。

活動団体との懇話会の実施

- 町内会長、町内の活動団体、小中学校長、地区社協の理事が集まり、テーマを決めて地区の課題解決について話し合った。

成果

広報誌ほたるの発行

- 写真を増やすなどして、読みやすさを追求し、地区社協の活動の紹介を行った。

役立ち隊

- 家具の移動・窓拭き・蛍光灯交換、草むしりなど、年間20~30件の依頼に対応。

標語による啓発活動

- 小中学生や地元の皆様から「支え合い、助け合い」の標語を募り、入選作品を地域の各家や中学校、保育園等の塀などに掲示した。支え合い、助け合いの意識の向上を図ることができた。

活動団体との懇話会の実施

- 令和元年度は防災をテーマに講話、事例紹介、協議を実施した。防災においても、向こう三軒両隣のコミュニケーションが重要であるとの認識で一致した。